



## ちほみのりの穂



ちほみのりの収穫が行われた檜山集落



收  
稿



# 極早生『ちほみのり』稻刈り

下田檜山集落『ならやま』

三条市下田地区の農事組合法人ならわま（若杉利行代表・構成員十八戸）は二十一日、うるち米の極旱生品種「うるちみのり」の稻刈りを行つた。JAにいがた南蒲によると、同JA管内での主食用米の収穫は今シーズン初めて。

同法人は檜山集落の生産者組織で、一昨年まではウシのえさになるホールクロップササイレージ(稲発酵粗飼料)を作っていたが、収益性を考え、昨年から「ちほみのり」を作付けている。

水稻ではそのほか、コシヒカリやモチ米の「こがねもち」、酒米の「五百萬石」なども生産している。「ちほみのり」は良質・良食味とつわれている多収米。秋田県の「あきた」まちなどの作付けが可能な東北以南が適地とされおり、中山間地の下田実つた稻を刈り取つ

地区もしつくりといふ。作付面積は昨年と同じ百六十九・二㌶。一般的な移植栽培で、四月二十九日に田植えを行つた。

J A 管内のとしてえ後のまず、初見られその人の一人の作柄が、茎穗で稻表は一まりと話して、収穫量を見ると、予想するかも、感じ一方所に散十分に取穫のあとで、スケジ

